

| | |
|---|---|
| 研究課題名 | 持続脳波モニタリングによる心停止後蘇生後脳症の予後評価に関する多機関共同研究 |
| 研究機関名 | 武蔵野赤十字病院 |
| 研究責任者 | 所属 救命救急科 氏名 鈴木 秀鷹 |
| 研究期間 | 臨床研究倫理審査委員会承認後 ～ 2033年3月 |
| 研究の意義・目的 | 心停止後症候群は非常に重篤な病態であり、その中でも低酸素性虚血性脳症は予後に大きな影響を与えることが知られている。この疾患の予後を早期にわかることによって、早期意思決定支援に寄与しうる。持続脳波モニタリングは心停止後において、予後予測に関して有用性が指摘されているが、判読に一定のスキルを要することから、これらに機械学習を用いて、精度の高い予測ができるか検証をすることとした。 |
| 研究の方法 (対象期間含む) | 方法:後ろ向き観察研究 対象期間・対象:2019年1月から2033年3月までに心停止後症候群で入院し、持続脳波モニタリングが実施された症例 調査項目: 主要評価項目 退院時modified Rankin scale 副次評価項目 退院時転帰、退院時Glasgow coma scale |
| ①試料・情報の利用 目的および利用方法 ②利用し、又は提供する 試料・情報の項目 ③試料・情報の取得 の方法 ④利用する者の範囲 ⑤試料・情報の管理 について責任を有する 者の氏名又は名称 | ①後ろ向き観察研究であり、診療録より情報を収集し、統計学的解析をおこなう ②調査項目:年齢、性別、心停止に関わる情報(目撃の有無、バイスタンダーCPRの有無など)、既往歴といった患者情報 入院中のCT検査、MRI検査結果、腎機能や肝機能採血データ、脳波データなどの検査データ 退院時の転帰やmRS、GCSといった転帰データを収集する ④武蔵野赤十字病院 研究代表者 TMGあさか医療センター、東京農工大学の共同研究者 ⑤研究代表者 救命救急科 鈴木 秀鷹 ならびに 武蔵野赤十字病院 院長 黒崎 雅之 |
| 問合せ先 | 当研究に自分の試料・情報利用を停止する場合等のお問合わせ 〒180-8610 東京都武蔵野市境南町1-26-1 武蔵野赤十字病院 所属 救命救急科 氏名 鈴木 秀鷹 TEL: 0422-32-3111 (代表) 6771 (事務局内線) FAX: 0422-32-3525 |